

# 望

四年

画数 11  
 筆順 ヌセ切 望 望  
 オン ボウ・モウ  
 フン のぞ 11 廿

成り立ち



土地の上に人が立っている形を表した「王」と、「月」と、この字の読み方（音）を表した「亡」（呉音はモウ）とを組み合わせて作った字です。

亡は、音を表すために使われた字で、意味にはかんけいがありません。「人が月を『のぞみ』見る」ことを表した字です。例 遠望、望見、望郷、展望。

「遠くに目をやって見る」ことを「望む」といいます。「心にふかく願ひ思う」ことも「望む」といいます。

例 希望、願望、切望、大望、本望、所望。

また、だれも見たいと思う「十五夜の月」を「望」または「望月」といいます。

使い方

▽よく「将来の希望はなに?」とか、「どういう人になりたいの?」と聞かれることがあります。ぼくの希望は宇宙飛行士になることです。宇宙ロケットに乗って、遠い星へ行けたら本望です。

▽わたしは夏目漱石や森鷗外の本を読んだことがありません。二人とも外国へ留学したことがあって、その体験記がおもしろいと思いました。漱石はイギリス留学が気に入らなかつたようで、書いたものには望郷の念がこめられているような気がします。

熟語例

- ▽遠望 (遠くを望み見ること。「山頂から地平線を遠望した景色」などというふうには、つかいません。)
- ▽望見 (遠くから望み見ること。)
- ▽望郷 (故郷を恋しく思うこと。)
- ▽展望 (遠く広く望み見ること。また、広いみはらし。「展望台から、あたりを見渡す」などというふうには、つかいません。)
- ▽希望 (心にふかく思い願うこと。)
- ▽本望 (本来の望み。もとの願ひ)

使い方

# 牧

四年

画数 8  
 筆順 ヌネ 牛 牧  
 オン ボク  
 フン まき

成り立ち



「牛」と、手にぼう(むち)を持った形を表した「攴」とを組み合わせて作った字です。

「牛を飼う」ことを表した字です。しかし、今では、「馬」や「羊」を飼うことにも使います。例 牧畜、牧場、牧草、牧羊。

また、「人を教えみちびく人」の意味にも使います。例 州牧、牧師。

「文」は、音はボクで、「ボクニヨウ」という言い方もあります。

使い方

- ▽日本では、あまり牧畜は盛んではありませんでした。しかし、今では北海道を中心として、かなり牧畜が盛んです。日本人も肉食が好きになり、牛乳やバターなどを食べるようになったからです。北海道は土地が広く、牧場を作るのに適しています。牧草が生えた広い牧場で、牛や馬などがゆったりとくらしています。
- ▽わたしの家の近くに、教会があります。そこには牧師さんが住んでいて、日曜になると、人を集めて、お話をしたり、礼拝を行ったりしています。

熟語例

- ▽牧畜 (牛や馬や羊を飼う仕事)
- ▽牧場 (牛や馬や羊を放し飼いにする所)
- ▽牧草 (牛や馬や羊のえさにする草)
- ▽牧師 (プロテスタントのキリスト教で、信者を指導する人。カトリックでは、神父と言います。)
- ▽牧羊 (羊を飼うこと。)
- ▽放牧 (家畜を放し飼いにすること。)
- ▽遊牧 (自然に生えている牧草を求めて、家畜とともに移動してくらす牧畜のやり方)